

Cooper Time Cube

デュアル・メカニカル・ディレイ・ライン

オリジナルのCooper Time Cube(以下CTC)は、ドウェイン・H.クーパーとビル・パトナムの共同設計より1971年に庭のホースをベースに機械的なディレイを生み出した今まで作られた製品の中で最もユニークなディレイとしてカルト的存在です。CTCは、素晴らしいショートディレイとダブリング・エフェクトで有名であり、ミックスの中に自然になじむ不思議な能力を持っています。しかしCTCは完璧なディレイとしては機能を制限されました。

14、16、30msecのセッティングのみを使用できました。長年にわたってこのちょっと変わった機材は強い支持を受けブラックバードやサンセットサウンドのように世界で最も信頼のあるスタジオで使用されてきました。

リチャード・ドット、ヴァンス・パウエルやジョー・チカレッリのようなトップ・プロデューサーやエンジニアはCTCの独特なキャラクターを信頼し続けています。

Cooper Time Cube MkIIは、オリジナルのディレイ・システムのサウンドと最新のディレイの特徴も持ち合わせています。シングル、またはダブル・ホース・コイルの異なったサウンドはディレイ・セッティングの設定に関わらず保存されます。どちらのサウンドでもスイッチによって切り替えが可能です。Cooper time Cube MkIIはオリジナル(A)またはレベル(B)の周波数レスポンスをユーザーに提供するカラー・スイッチやトンコントロール、2ポール・ハイパス・フィルター等の強力なトーン・シフトを取り入れています。最後に、スイッチはウェット・シグナルのソロ機能を持ち、SEND・スイッチはディレイへ送られるかどうかをコントロールします。

Cooper Time Cube スクリーンショット



UAD Cooper Time Cube プラグイン・ウィンドウ

デザインの概要

オリジナルの「UREI/Universal Audio Model 920-16 Cooper Time Cube」ハードウェア(「Cooper Time Cube」ハードウェアを参照してください。)は2つのオーディオ・チャンネルAとBを持っています。各々のチャンネルは、特徴的なサウンド・キャラクターを定めるアコースティック・サウンド・コラムを作り出す丸く巻きつけたプラスチック・チューブの長さによって変換されます。

各々のチャンネルのコイルは決まっていますが、異なる長さです。そしてそれは、チャンネルAには16msec、チャンネルBには14msecと一定のディレイ・タイムです。2つのチャンネルは外部のルーティングを通して直列にカスケード接続をし、その時代の理にかなった、忠実なディレイ・タイムは全体で30msec利用可能です。それは(元の製品パンフレットによると「ディレイ・ラインとしてこれまでわずかに可能だった完璧な地位をもっています。」

UAD Cooper Time Cubeプラグインは、オリジナルのフィーリングと共に現代風に強化もされています。それは2台の独立したディレイ・プロセッサーによる本当のステレオ・プラグインです。各々のチャンネルは独立したコントロールとプラグイン全体に影響を及ぼすグローバル・コントロールを持っています。

Cooper Time Cube コントロール

グローバル・コントロール

グローバル・コントロールは、同時に両方のチャンネルへ影響を与えます。



ゲイン

ゲインは、A(左)とB(右)チャンネルに入力するための信号レベルをコントロールします。ゲインは、ウェットとドライ双方の信号に影響を与えます。利用できる範囲は±15dBです、12時の位置が0に当たります。

HPフィルター

ハイパス・フィルターは、ディレイに入力された信号の低周波数帯を12dBずつフィルタリングすることができます。

ハイパス・フィルターはウェット・シグナル(ディレイ音)だけに影響します。使用可能な周波数帯は20Hzから12kHzまでです。ディレイ音の低周波数帯を減らすにはつまみを時計回りに回して下さい。ディレイ音の完全な周波数帯で再生するにはつまみを反時計回りいっぱいまで回して下さい。

エコーA/B

この2つの「ウィンドウ」はチャンネルAとBの現在のディレイ・タイムを表示します。ここに示された数字

がディレイの値と定義されます。(ディレイA/Bの項を参照してください。)ディレイ値はテキスト入力によって直接ここで入力が可能です。シンク・モードがオフのとき、ディレイ・タイムは「ミリ秒(msec)」で表示されます。Syncモードがオンのとき、ディレイ・タイムは小節や音符の長さで表示されます。ビートの値がディレイ・タイムの範囲外にある場合、ディレイ・タイムにカッコが表示されます。これはシンク・モードがオンで、示される音価が2500msec以上になるときに起こりうる問題です。(ホストアプリケーションのテンポによって変わります。)

シンク(Sync)

このスイッチは、両方のチャンネルがシンク・モードに対応することを決定します。シンク・モードになると、ディレイ・タイムはホストアプリケーションのマスターテンポに同期(依存)します。シンク・モードが切り換えられるとき、ディレイ・タイムの値はその時のいちばん近いミリ秒とビートの数値を切り替えて表示します。テンポ同期の詳細については第8章を参照してください。

SEND

SENDは、信号がディレイ・プロセッサへ送られるかどうかを設定します。

SEND・オンにした場合、入力された信号はディレイに送られ、オフの場合は送られません。

コイル

オリジナルのハードウェアにある両方のチューブをカスケード接続した場合、(両方のチャンネルが連続接続されるので)使用できるディレイ・タイムが増加します。その時、1つだけのコイルを使用する場合とわずかに音が変わります。ディレイの値に関係なく、コイルはハードウェア上で利用できるトグルスイッチで二つの音を切り替えることができます。

Tips: コイル値を1にセットした場合、長いディケイを利用可能です。

カラー

カラー・スイッチはハードウェア上のポジションAのオリジナル・フィルターとレベルド・フィルターのポジションBの間を切り替えます。そしてそれは、より大きいディケイ範囲を可能にします。A、Bのラベルは参照のためであって、左右のチャンネルを意味してはいません。

注: カラーは、繊細な場合があります。コイルやディケイの値に応じて影響を受けて、変化する場合があります。

トレブル

トレブルはディレイ・シグナルの高周波数域のコントロールを行います。ドライ・シグナルには影響しません。

トレブルはカット/ブースト・コントロールです。:12時の位置ではその機能は影響されません。

バス

バスはディレイ・シグナルの低周波数域のコントロールを行います。ドライ・シグナルには影響しません。

バスはカット/ブースト・コントロールです。:12時の位置ではその機能は影響されません。



ウェット・ソロ

ウェット・ソロ・スイッチはCooper Time Cubeを「100%ウェット」モードに入れます。ウェット・ソロが動作中はドライ信号をミュートします。プラグインをグループ/バス・チャンネルで使用する場合、ウェット・ソロは最適です。

プラグインがチャンネル・インサートに使用されるとき、このコントロールはオフにする必要があります。

注: ウェット・ソロはグローバル・コントロールです。その値は予めセットされたファイルの中ではなく、ホストアプリケーションのファイルに保存されます。

パワー

パワー・ボタンはプラグインが動作中かどうかを決定し、表します。プロセッサを無効にするにはパワー・ボタンをクリックしてください。パワーはエフェクトによって処理された音と、元の音を比較する場合に役立ちます。

メーター

VUメーターはプラグインの出力レベルを視覚的に確認できるよう表します。(メーターに調整機能はありません。)

メーターはプラグインのパワーがオフの時、反応しません。

チャンネル・コントロール

チャンネル・コントロールは個々のチャンネルを独立してコントロールすることができます。コントロール機能はどちらのチャンネルも同一です。「A」は左チャンネル、「B」は右チャンネルを意味します。



ディレイ A/B

ディレイは各々のチャンネルのディレイ・タイムをコントロールします。決定された数値はエコー・ディスプレイに表示されます。各々のチャンネルに設定できるディレイ・タイムは5msecから2500msec (2.5sec)までです。

シンクが有効になっている場合、1/64から3/1の間のビートを選択することが可能です。(85頁の表5を参照してください。)

ビートの値がディレイ・タイムの範囲外にある場合、ディレイ・タイムにカッコが表示されます。これはシンク・モードがオンで、示される音価が2500msec以上になるときに起こりうる問題です。(ホストアプリケーションのテンポによって変わります。)

Tips: シンク・モード中にビート値を変更する場合、コンピュータの矢印キーで増減させることが可能です。

ディケイ A/B

ディケイは処理された信号をどれくらいフィードバックさせるかを決定します。最小値では1回のフィードバックをセットします。最大値ではほぼ無限にフィードバックさせます。より高い数値にするにはツマミを時計回りに回してください。

パンA/B

パンはディレイ(ウェット)信号をステレオ・フィールドでのセッティングを行います。:ドライ信号には影響しません。

Tips: 数値をセンター位置に戻すには「PAN」のラベル・テキストをクリックしてください。

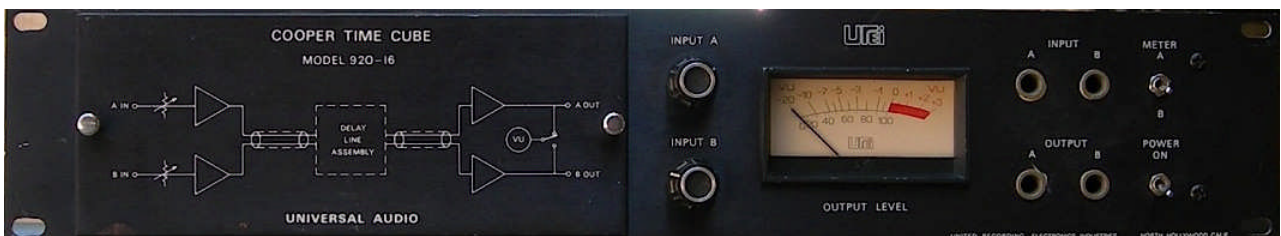
注: プラグインがモノイン/モノアウトで使用されるとき、パンは機能しません。

エコー・ヴォリューム A/B

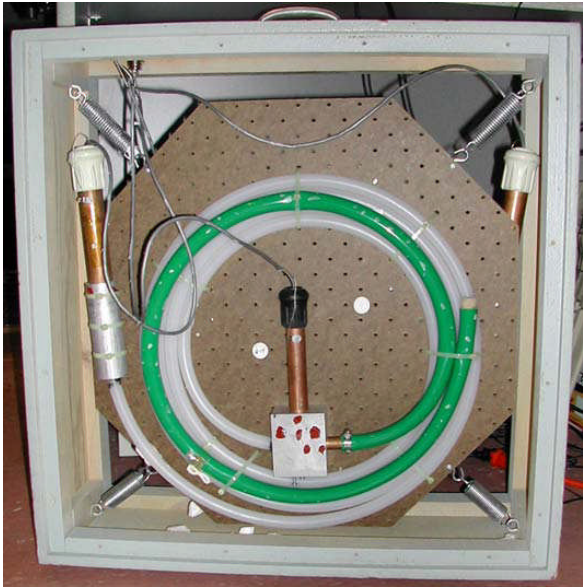
このコントロールは、ディレイ・シグナルのヴォリュームを調整します。より大きなエコーを得るためにはツマミを時計回りに回転させて下さい。最高で+10dBまでゲインをあげることが可能です。このコントロールを最低値に下げるとディレイのヴォリュームを引き下げます。

Tips: ディレイ出力のミュートをオン/オフするには「ECHO VOL」ラベルをクリックしてください。

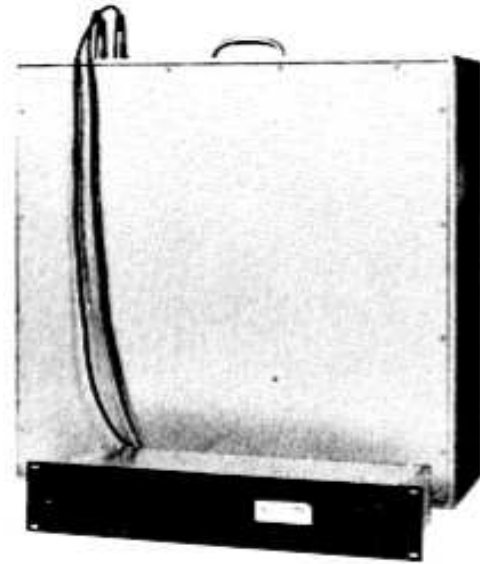
Cooper Time Cube ハードウェア



オリジナルのCooper Time Cubeハードウェア・フロント・パネル



アコースティック・モジュールとコンプリート・システム



COMPLETE SYSTEM